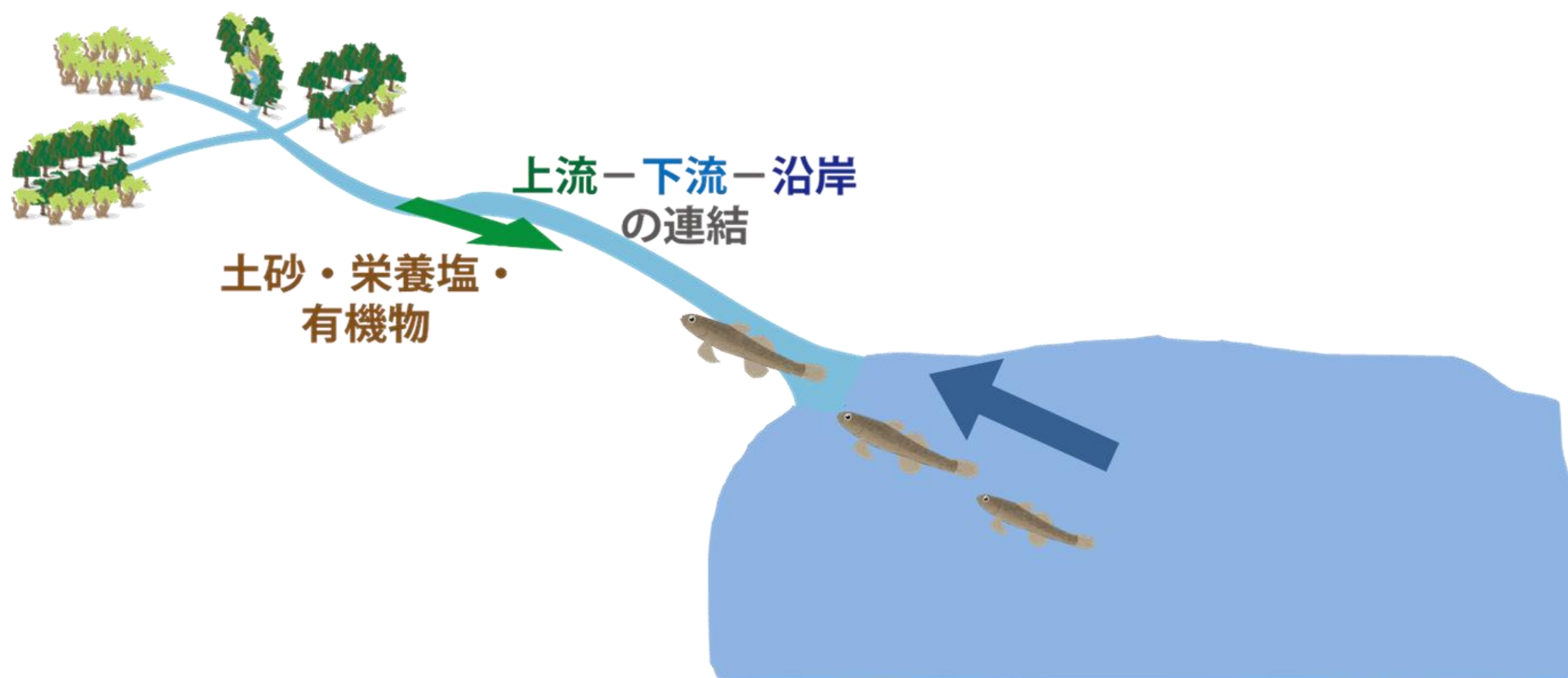


22 February, 2020

Biodiversity of coastal seas and restoring environment
沿岸域の生物多様性と環境修復

Biodiversity in a forest-stream-marine linkage

森・川・海のつながりが育む流域の生物多様性



Department of Biology, Kobe University
Takuya Sato (佐藤拓哉)



<講演の内容>

沿岸域の生態系では、遠く山や平野部から、川を流れて運ばれてくる土砂や有機物、無機栄養塩類に強く影響を受けて、生物の多様性が育まれています。一方で、沿岸域の生態系は、海と川を行き来して暮らす魚類やエビ・カニ類の重要な生息場所となっています。それら魚類やエビ・カニ類は、沿岸域で一時期を過ごした後、季節毎に河川を遡上します。例えば、春先にはアユが、夏になると小さなハゼ科の魚たちが、また夏から秋の夜には、様々な種のエビ類が河川を遡上しています。それらは河川で採れる海の恵みとして、海から遠く離れた内陸の郷土料理になったりもしています。

本講演では、こういった海と川と森のつながりが育む河川流域の生物多様性について、特に日本列島の河川に広く生息する両側回遊魚に注目してお話します。また、近年の気候変動が生態系のつながりの変化を通して、生物多様性に及ぼすリスクについても考えてみたいと思います。